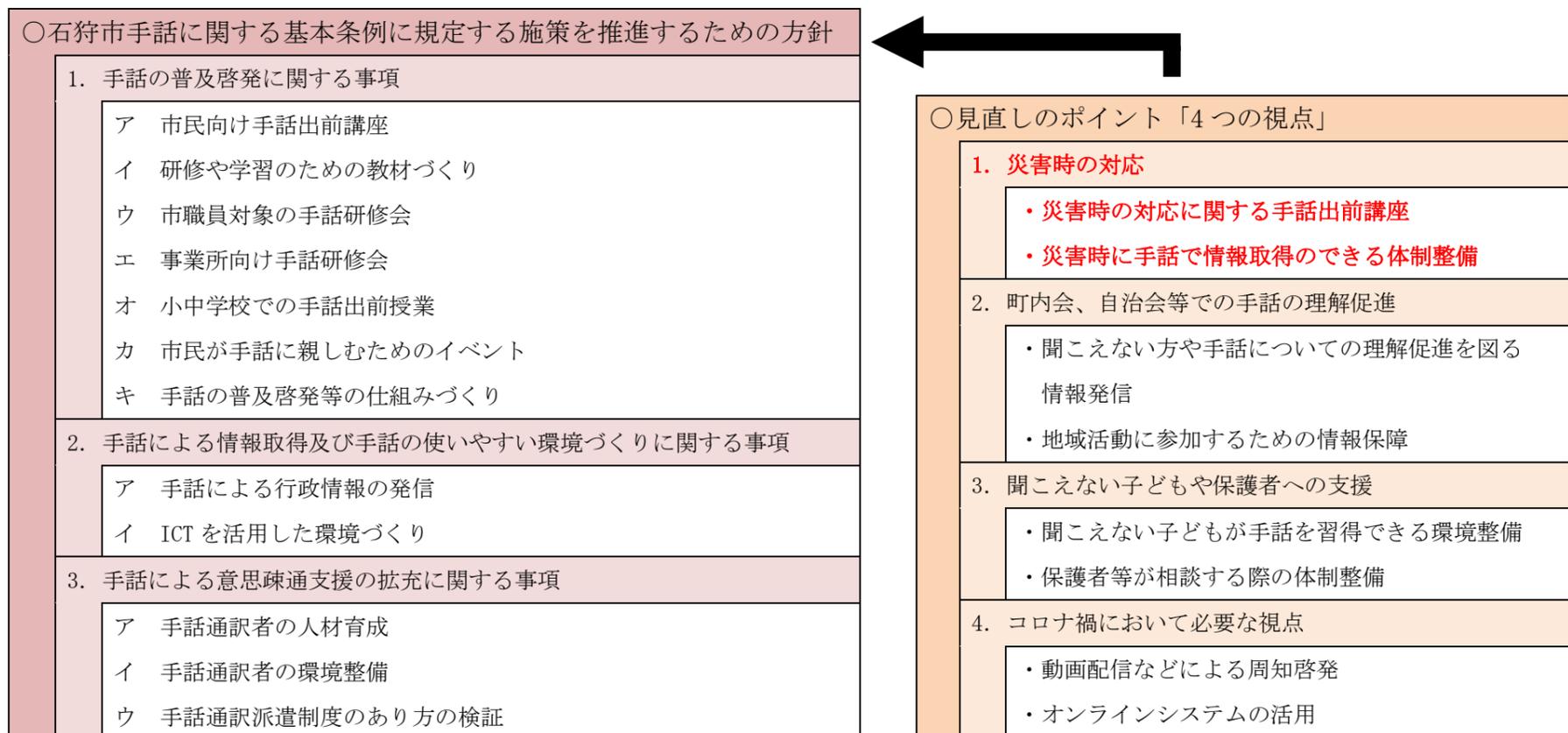


## 施策の推進方針の見直しに関するポイント

下記図表のとおり、現行の施策の推進方針に見直しのポイントである4つの視点を取り入れます。本日は、4つの視点のうち「1. 災害時の対応」を中心に検討していきます。



見直しのポイント「4つの視点」について、これまでの懇話会で出された意見です。

### 1. 災害時の対応

- 災害が起きた時は避難所に行くので、その際の情報保障として避難所に遠隔手話通訳用のタブレットパソコンを配置することが必要だと思う  
全ての避難所に配置するのが難しいのであれば、聞こえない人が避難している避難所にタブレットパソコンを持って行くことでも良い
- 手話出前授業では災害時のロールプレイを実施しているが、今後もその時々の実情に合った内容での実施が必要だと思う
- 災害時の情報共有としてコミュニティアプリを利用した、グループメールや情報発信が必要だと思う
- 高齢でスマートフォンやタブレットパソコンを使えない方のため、また電源がなくても利用できるもので、すでに避難所に置いてある災害時支援バンドナと一緒に筆談ができるグッズが必要だと思う

### 2. 町内会、自治会等での手話の理解促進

- 町内会や自治会に災害時支援バンドナを周知しているが、もっと身近に感じられるような周知が必要だと思う
- 「手話サークルの例会の後に、市役所ロビーで聞こえない人が集まっているから、是非、参加してください」など、石狩聴力障害者協会や手話サークルと一緒に方策を考えていきたい
- 町内会に対しては手話表現を覚えてもらうのではなく災害時のリスクを知ってもらう動画、企業に対しては研修で使える動画が必要だと思う
- 挨拶や名前などテーマを絞った単発の講座を1年に数回（土曜日などに）開催するなど、親子で参加できる取組みが必要だと思う
- 町内会の方が実際に聞こえない人と接することで、手話に興味を持ってくれたということがあったので、例えば、町内会で実施している既存のイベントにプラスアルファする形で聞こえない人や手話について学んでいただくなど、きっかけをどう作るのかということがポイントだと思う

### 3. 聞こえない子どもや保護者への支援

- 保健師の赤ちゃん訪問の際に「耳の聞こえが悪い」と相談されたら、関係部署と連携していくことと思うが、すぐに人工内耳というわけではなく、いろいろな選択肢があると良い
- ペアレントメンターの配置が必要だと思う
- 人工内耳をつけて普通学級に行くのか、聞こえない人としてありのまま生き生きと過ごしていくのか、考え方も多様な時代なので、保護者が相談できる場所が重要だと思う

### 4. コロナ禍において必要な視点

- 全国的に役所、病院、公共施設にタブレットを設置しオペレーターとつなぎ通訳を行う遠隔手話通訳の必要性が高まっている  
聞こえない人が来ないので必要ないということではなくて、難聴者や高齢などにより聞こえなくなる人もいるので、幅広く対応できるようにしてほしい
- コロナ禍でイベントなど集まる機会が難しくなっていくので、自宅で学習できるような取組みが必要だと思う